



ニュースをどう伝えるか

対談

荻上チキ
(評論家)

武田砂鉄
(ライター)

朝8時からの『武田砂鉄 ラジオマガジン』(文化放送)と、
夕方5時からの『荻上チキ・Session』(TBSラジオ)。
ともに長時間の帯ワイド番組で、さまざまなニュースや情報を扱う。
パーソナリティはどんな準備をし、何を考えながら放送しているのか？

整理するから伝わるものと 未整理だからこそ届くもの

——おふたりとも帯番組を担当されています。放送日のルーティンを教えてください。

荻上 私ばかりと流動的ですが、通常は朝起きて日常のことをしながら、合間にニュースに触れて、その中で思考しています。TBSに来て、新聞各紙をひと通り見て、いま何が起きているのか、各報道を横断していく。『Session』には「聴く国会」というコーナーもあるので、会期中には国会の動向チェックも欠かせません。国会中継を視聴し、SNS上での反応を探ったり、あとはTBSの記者が国会でのやりとりを文字起こししてくれているので、どの部分を使うか考えたりしています。

ゲストの方の本や、トークのテーマに関連する資料は読んだりしますが、カチッと固めることは少なく、ゲストの方とのライブ感でアドリブ的に放送していくことのほうが多いですね。武田 チキさんはもう十数年番組を続けていて、知識や経験も豊富なので、それを帯番組の基準として語られたら困ります(笑)。『ラジオマガジン』は朝の帯番組なので、起きている時間から完

全に決めています。4時45分に起きて、着替えて、顔洗って、テレビのチャンネルをいろいろまわしながら、何紙か読んでいる新聞を読み、6時10分に家を出て、文化放送に7時すぎに着きます。それから、番組冒頭のニュースコーナーで何を取り上げるか考えたり、曜日レギュラーの人と打ち合わせをしたり。言ってみれば、ちゃんと目を覚ますことが8時に向けてのメイソンの作業かもしれません。

自分自身が昔からラジオを聴いてきたので、朝のAMラジオはこういう感じでみんな聴いているんだろうというイメージはできていました。『ラジオマガジン』の名のとおり、コンセプトは雑誌なので、軽いエッセーもあれば、きちっとした特集もあれば、単なる愚ふざけみたいなものもあっていい。この箱の中にどういうものを入れるべきなのか、開始からまだ1年も経っていないので模索しながらやっています。

——荻上さん、番組を長続きさせる秘訣などはあるのでしょうか？

荻上 長続きを目標にしているわけではないんですけどね。個人的には、ラジオが私という人間のすべてというより、ラジオで実現できることを最大限に引き出そうという感じ。自分なりの社会的コミットメントの手段のひとつで、そ

こでできることを常に模索しながら、番組へのフィードバックをしています。さまざまなメディアがニュースを伝える中で抜け落ちがちな視点とか、取り上げられにくいようなテーマとか、尻込みして扱われないような切り込み方とか。そうした必要性を開拓していけるかが大事だと思います。

特集のコーナーでは、たとえば具体的な事件や事故の当事者の方をお招きして1時間じっくりお話を聞きます。それだけ時間を費やせるのはものすごく貴重なことで、5分、10分の枠のインタビューでは届かない話にまでリーチできる。そのために話をしっかりと引き出していくことを意識しています。コラムのコーナーでは、「可視化されない当事者性」への着目をさらに促していくような話をすることが多い。そうした役割が必要とされれば番組は続けし、自分が応答できる限りはパーソナリティとして続けていけると思っています。

武田 ぼくもラジオで日々いろんな人に話を聞いていますが、基本は質問をバンバン投げけるというより、相手がたくさんしゃべってくれる人ならどんどん引き出したほうがいいと思っています。ただ『Session』を聴くと、チキさんは相手がしゃべっていることを整理しながらイン

この続きは本誌でござい！